

令和4年度 宇陀市立大宇陀中学校 自己評価書（教育活動）

学校教育目標		夢 自主 自立～夢に向かい 自ら主体的に活動し 自立しようとする生徒の育成～										
運営方針		学校教育目標の実現を目指し、教職員を適材適所に配置し、その英知を集結して創意あふれる教育活動を展開する。 ・全教職員の経営参画による学校経営 ・生徒の自尊感情の高揚と人権が尊重される学校づくり ・授業の充実、改善を図り、生徒の「確かな学力」の保障 ・施設・設備の充実と学校安全の推進 ・家庭や地域との信頼関係の構築及び地域に根ざした特色ある教育の推進										
前年度からの課題		・指導方法の改善に向け、授業研究等を推進する。 ・生徒の自主的な活動を活性化する。 ・保護者・地域などとの連携を密にする。 ・家庭学習（特に復習）の習慣化			本年度の重点		・基礎学力の定着と授業力の向上 ・自主的・主体的に行動できる生徒の育成 ・学習規律と基本的生活習慣の確立 ・人権意識の育成 ・家庭学習（復習）の充実					
大項目	中項目	小項目	具体的評価項目	評価指標	評価	成果と課題		課題の改善方策等				
I 教育 活動 に 関 する も の	(1) 挨拶の習慣化と清掃活動の徹底	① 挨拶の習慣化	学校内での挨拶の実施状況	・生徒アンケートの結果が80%となったか。	A	A	○学校内での挨拶は生徒95%、教職員のアンケート結果では85%という肯定的結果であった。 ○学校外での挨拶は72%以上の生徒が肯定的に答えている。 ○87%の生徒が、熱心に清掃を行っているとの肯定的に回答している。 ○用具点検を委員会活動として行った。	・さらなる向上をめざす。				
			学校外での挨拶の実施状況	・生徒アンケートの結果が70%となったか。	A							
		② 清掃活動の定着	・毎日清掃活動を行ったか	・毎日清掃活動を熱心に行ったか	A							
			・清掃用具の管理	・生徒活動として、学期ごとの用具点検・補充、補修ができたか。	A							
	(2) 基礎学力の定着と向上	① 学習指導計画	・指導計画（シラバス）の作成	・各教科のシラバスを作成し、生徒に示したか	A	A	○学年毎にシラバスを作成し、生徒、保護者に周知している。 ○新型コロナウイルス感染防止のための対策を講じながら、コロナ前の例年の計画通りに進められた。 ○教職員アンケートの結果は100%の実施率であり、すべての教科で実施されている ○教職員は100%ユニバーサルデザインを意識した授業を展開していると回答している。また、94%の生徒ががわかりやすい板書であると回答している。 ○教職員へのアンケートでは77%がICTを有効活用した授業を展開していると回答。 ○教職員アンケートでは「生徒一人一人を大切に、認める教育を行っている」と100%が回答している。また、特別な支援が必要な生徒などについての共通理解ができていくについても100%肯定的に回答している。 ○昨年同様感染予防のため機会は少ないが、感染対策をとりながら可能な限り取り入れた。	・家庭学習については、保護者アンケートで66%が生徒アンケートで57%が肯定的な回答をしている。習慣化（特に復習）や充実のための取組をさらに充実させる。 ・自主教材の開発を積極的に行う。 ・観点別評価における、第3観点の評価（主体的に学習に向かう態度）に関する研修を行う。				
				・年間計画通りに学習指導を進めることができたか	A							
		② 指導方法の工夫改善	・指導方法の工夫・改善	・授業の最初に、その授業での「ねらい」を示したか	A							
				・生徒にとってわかりやすい板書を心がけたか	A							
			・ICT機器・教材、コンテンツ等を活用したか	・ICT機器・教材、コンテンツ等を活用したか	A							
				・学習形態の工夫・改善	・机間指導で、個別指導を丁寧にしたか				A			
		(3) 自主的・主体的に行動できる生徒の育成	① 生徒会活動の活性化	生徒が主体となる活動の計画・実施	・生徒会が中心となるあいさつ運動を毎学期実施することができたか。				A	A	○生徒会が中心となり、挨拶運動を実施している。習慣は身につけている。 ○生徒総会等を実施した。 ○ガイドボランティア活動、花いっぱい運動、昇降口の清掃や除草作業等計画的に行い、成果を上げている。 ○部活動では、運動場、体育館、テニスコートに熱中症指数計を設置すると共に、迅速な対応を心がけた。また、新型コロナウイルス感染防止にも努めた。 ○各部で部活動の保護者を開催し、活動方針を明確に説明できた。 ○新型コロナウイルス予防等、健康安全に留意し部活動を行えた。	・生徒会活動や部活動において、生徒が主体となって取り組む活動をさらに充実させる。また、広報を積極的に行うとともに、地域と連携した取組にいく。
					・執行部と専門部、部活動が連携した活動を行うことができたか。				A			
	・生徒会や部活動が地域に貢献する活動を実施することができたか。				A							
	② 部活動の活性化		安全な部活動の実施	・けがや事故、熱中症等に対して適切な対応ができたか。	A							
				・生徒が意欲的に取り組む部活動	・部活動保護者を開催すると共に、一人一人が楽しく活動できる部活動となったか。	A						
					・部活動の約束をまもり、規則ただしく元気な部活動となったか。	A						
	(4) 人権意識の育成	① 人権教育の内容点検	・人権教育推進計画の見直し ・人権意識の向上	・人権教育委員会の指導方針に基づいた推進計画となったか。	A	A	○県教育委員会の指導方針を柱にした推進計画を立てている。 ○7月に人権教育講演会を実施、また、夏期休業明けには人権作文の発表会も実施し、生徒の人権意識を高める機会となった。夏期休業中には職員研修で水平社博物館の見学に出向いた。 ○定期テスト前の実施により、効果的に実施できた。	・教員向けアンケートにおいて、「人権学習では重点教材などを決め計画的に実践している」の項目が53%と低く、また、「人権教育指導計画は本校の実態をふまえたものになっている」への肯定的回答も77%と低かった。全教育活動の中で人権教育を位置付けるためのさらなる研修を行う必要がある。				
				・定期的実施することができたか。	A							
		② 人権に関する取組の推進	学習教室の充実	・子どもたちにとって魅力ある活動となったか。	A							
				・子どもたちにとって魅力ある活動となったか。	A							
(5) 新型コロナウイルスへの対応	予防のための取組と人権の尊重	新しい生活様式の実施	・予防のために対策をとれたか。また感染者が発生した場合の配慮はできたか。	A	A	マスクの着用の徹底、給食時及び清掃時及び放課後の消毒等は徹底できた。また、感染者が発生した場合も感染者に配慮した対応をとれた。学習保障のためのリモートによる授業も個々に応じて対応した。	・継続して実施する。					